

2011年の年末に

泣くも笑うも後4週間で2011年を終えようとしています。今のところ暖冬のように雪と戦いわなだけでほっとしますが、でも北欧の冬ですから年が明けると冬らしく雪も降れば凍結もあると覚悟しておかなければいけません。その為には車のタイヤを冬タイヤに換えて、納屋から雪かき用の木製の平シャベルを出して、氷の凍解用の岩塩を買ってと、冬の用意を着々と整えて「備えあれば憂いなし」の状態にしておくべきでしょう。

しかし「備え」の言葉が空しく聞こえる程の想定以上のメガ津波に襲われた3月11日の東日本、事故の勃発を予想に入れないで建設され、起こるべきでない事が起こってしまった福島原発の事故、と祖国日本は今年は大きな災害の渦の中に巻き込まれてしまいました。遠くデンマークに在住の私達は「のど元過ぎれば熱さ忘れ」心理で震災から9ヶ月が経った今、ともすれば日本のその事を忘れがちですが、この災害は決して忘れてはいけません。自然の起こした災害だけであれば年月が経てば再建ができますが、原子炉の破壊という誰もが予想しなかった事故の後遺症は、日本を何時果てるとも分からない不安の暗雲の中に閉じ込めてしまいました。しかしそのような事情の下でも同胞は家族の無事を祈り、色々工夫しながら少しでも安全な生活をと逞しく生きています。その人達の事を思い続けましょう。

祖国のそのような方達の為に私達がすべき事は何でしょう？今年の9月東松島市の震災孤児がフレンドスボー市に招待されてデンマークを訪れた際、大使館の要望のもと、たちまち15名のボランティア通訳が会員の中から集まり、大使館からこれ以上必要なし、と嬉しい悲鳴があがった事は、いかに我々が祖国の為に何かをしたいと願っているかを強く物語っています。今後もこのようなプロジェクトがあれば、物心両面のサポートを東日本の方達にし続けたいと思います。

短時間ですが、被災地を訪れた時に「皆様のご親切は有難いと思っています。」と、とつとつとした仙台弁で語ってくれた地元の方達の感謝の言葉も伝えておきます。

来年こそ良い事が起きますように！と願わざるを得ない今年でした。被災地の人々と心を合わせて、少しでも彼らの心の傷が癒える様に、放射能の脅威におびえる生活が少しでも改善されますように、祈り続けたいと思います。

来年こそ祖国日本にとって良い年でありますように！そしてデンマーク在住の皆さんは来年も良い年でありますように！

2011年12月7日記

デンマーク日本人会会長

和子・マイヤー